学校経営推進費評価報告書（２年め）

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立花園高等学校　全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	①　「決定した進路への満足度」47.5%（平成 28 年度）を３年後 80%に ②　国公立大学と難関私大合格者数合計 62 名（平成 28 年度）を３年後合計 100 名以上に ③　卒業時のアンケート「探究学習を通じて成長できた」肯定率 80%
計画名	未来を拓く・世界とつながる HANAZONO 探究プロジェクト

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	１ 英語教育、国際理解教育の一層の充実 （１）　国際教養科の取組を発展させ、両学科ともに英語教育の充実をはかる ウ　各種の行事を英語学習の動機づけに活用すると共に、英語を発信する機会を増やし、その力を強化する。 （２）　様々な国際理解教育の機会づくり ア　幼小中・他校との連携を視野に入れた英語・国際理解関連行事の推進 ２ すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援 （２）　キャリア形成の段階的支援 イ　花園キャリアプランに基づき、すべての教育活動を通じて、考える力・発信する力・協同する力を育み、最後までやり抜く力を身につけさせる。 ウ　探求的な活動を通じて、未知なるものに果敢に挑戦し、意見の交換・調整を通して仲間とともに課題を解決する力をつけ、自尊感情を高め、予測不能な２１世紀社会を生き抜く力を育む
事業目標	授業や学力向上の取組み（講習・学力考査等）に加えて、学校・地域・外部機関と連携した取組みを、探求的な学習やフィールドワークも含めた様々な形態で行う。これらの取組みにより、学習への動機づけを行い、自らの進路を切り拓く力をつけ、希望する進路の実現を可能にする。 また、「総合的な探究の時間」への準備段階と位置づけ、「探求」から「探究」への深化をめざした教職員の指導力向上もねらいとする。 （めざす学校像「生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校」を実践）
整備した設備・物品	• ビデオカメラおよび周辺機器・iPad 50 台・模造紙・付箋
取組みの主担・実施者	• 主担：　ビジョン*チーム（首席・進路指導部長・各学年進路・教務） ＊ビジョン：総合的な学習の時間 • 実施者：各学年全教職員 • 連携先：香川大学・大阪市立大学・大阪府立大学・NPO 法人 COCO ルーム・東大阪ブランド推進機構・東大阪市役所・イオントップバリュー・NPO 法人東大阪子育て支援コロボックル

本年度の取組内容	① 1 年「企業探究」17 時間、２年「ソーシャルチェンジ」12 時間、３年「社会の課題」３時間を「総合的な学習の時間」において取り組んだ。３年生は当初予定していなかったが、実施することができた。校内発表会（３年はクラス発表会）を行い、全国大会にも応募した。生徒たちは、模造紙・付箋・iPad を活用して、グループで調査、検討を行い、アイデアを出し合った。活動の様子をビデオで記録した。 ② 「HANAZONO 進路探究プログラム」を６月・11 月に実施。参加生徒のべ 403 名。途上国支援（スカイプで現地とつなぐ）理系の物づくり（企業）などのプログラムを新設した。ラグビーW 杯応援プロジェクトでは、東大阪市役所で市長に向けて取組みのプレゼンテーションを行い、クリーンアップ活動に参加した。生徒たちは、地域の商店街の方々と打合せを重ね、企画を練った。 ③ 小論文・面接講座を計２回実施した。AO・推薦で国公立に３名が合格した。
成果の検証方法と評価指標	① 生徒アンケート３年生「進路決定に役立った」肯定率 80%「決定した進路への満足度」65% ② 国公立大学と難関私立大学の合格者数計 80 名以上 ③ 「HANAZONO 進路探究プログラム」参加生徒数 80 名以上。生徒アンケート「参加して役だった」の肯定率 80% ④ プレゼンテーション・ポスターセッション等、発表会や研修会を他校と合同で実施。生徒アンケート「探究学習を通じて成長できた」の肯定率 70%
自己評価	① 生徒アンケート３年生「進路決定に役立った」肯定率…… 88%（◎） 「決定した進路への満足度」…… 75%（◎） ② 国公立大学と難関私立大学の合格者…… 総計 43 名（△） 但し、国公立大学は 9 名に躍進（前年度３名）…… （◎） ③ 「HANAZONO 進路探究プログラム」参加生徒数 …… 403 名（◎） 「参加して役だった」肯定率…… 88%（◎） ④ 生徒アンケート「探究学習を通じて成長できた」肯定率…… 88.4%（◎）
次年度に向けて	① 教職員の共通認識はできつつある。総合的な学習の時間での探究は、学年団が担い、「Hanazono 進路探究プログラム」はビジョンチームが中心に担うという体制も整い、取組みに関わる教員数も増加。次年度は、さらにその次の年度に行う独自の取組みを開発する必要がある。 ② 成果指標に進学実績をあげているが、私立大学の定数厳格化の影響を大きく受けたこともあり合格者数が減り、指標には程遠い数字となった。しかし、国公立大学の合格者は前年度の３倍となっている。次年度も厳しい状況が予測されるため、当初の指標達成は難しい見通しであるが、一人でも多くの生徒が希望の進路を実現できるよう、進路指導部と学年が連携してあたりたい。